

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| LIFE | キーワード：平和学習 音や言語による表現 |
| 「平和への祈り」をつくろう ＜ 配当時間数 13時間 ＞ |  |
| 長崎への社会見学旅行，中でも原爆資料館の見学などの平和学習の体験で感じたおもいを「平和への祈り」という作品にこめて，言語的，音楽的な要素を用いて表現する。 | |

1. 単元の目標

この単元では，各教科，特別活動などでの学習経験を生かし，資料や音素材を活用しながら原爆や平和に対するおもいを表現する活動を通して，自分たちのおもいを伝えていくために必要な情報を収集・活用する能力，目指す表現にするための課題をもち追求・解決していく問題解決力，内容や方法を工夫して他者へ伝えようとする自己表現力を育成することを旨とする。

2. 単元の構成と特色

第1段階 題材内容の把握と原爆についての知識を深める

本題材では，作品の内容を3部構成にする。第1部は「原爆の悲劇」，第2部は「原爆のもたらしたものの」，第3部は「永遠の平和に向かって」というテ - マとする。

3年生夏休みに行われる社会見学旅行の事前学習との関連を図りながら，原爆やその被害についての知識を深める。そこで身につけた知識と本単元の学習内容を把握したのち，社会見学旅行で長崎平和公園・原爆資料館の見学が行われることになる。

第2段階 グル - プ分けと役割分担

次の段階では，クラスを3つのグル - プに分け，それぞれ受け持ちたいテ - マを選択させる。その中で，ナレ - ション作成係，ナレ - ション担当係，演技担当係，BGM・効果音作成係，作詞・作曲係を決めさせるようにする。ナレ - ションの内容がその他の役割に大きく影響してくるため文章へのアドバイスやチェックが大切になる。

第3段階 グル - プでの作品づくり

ナレ - ションの内容をもとにしながら，それぞれの係の連携のもとに作品づくりを進めていく。ここでは，各グル - プが静かな環境の中で話し合ったり，聴き合ったりできる部屋の確保やそれぞれのグル - プにCD・カセットデッキを用意するなどの環境を整えておく。ここでは，生徒の既習経験や生活体験などが十分生かされることになる。

第4章 LIFEの事例

第4段階 作品発表の練習・中間発表・録音

作品づくりができた後は、発表の練習となる。中間発表においては、活発な意見交換が行われるようにするために、3～4人単位のグループを作り、意見交換カードに書かせる活動を設定する。中間発表の反省、他者からの意見などをもとに作品を練り上げ、録音する。3つの部分を通してきくことで生徒はクラス全員で作りあげた喜びを味わうことができると思う。

3. 主題に迫るための手だて

ナレ-ションづくりなどの言葉に関する表現においては、語彙力が大切になってくるため、原爆記念館発行の本、永井博士が書いた本、はだしのゲンなどの本、原爆資料館に行って感じた生徒の感想、また、インターネットでの検索などを利用させる。BGMや効果音づくりについては、音源となるCDソフトをいろんなジャンルから選べるように用意したり、実際にテレビや映画で使われている音の作り方の紹介やいろいろな楽器の確保、身の回りのもので音を出せるものへの視点の転換などのアドバイスなどを行う。具体的な方法としては、上の2つが大切になると考える。さらに、グループ活動における意見交換、中間発表における小グループでの意見交換などの活動の工夫により、おもいが伝わる表現を追求させることができると考える。

4. 単元における評価の観点・方法

(1). 表現に必要な資料や音素材などを活用する能力が身についているか

自分の表現に必要な言語資料、場面のイメージに合った音源や音素材などをどのように活用しているかを、学習カードの記述からその考え方を捉えたり、実際の活動の観察を通して評価する。

(2). 他者の表現との関わりを考えながら、自分の表現を工夫していく能力が身についているか

作品全体の構成の中での担当部分、他者の表現とのつながりや流れを考えて表現づくりをしているか、グループでの高め合いや表現を評価しあい、改善、練り上げを行っているかを毎時間の学習カードの記録や実際の活動の観察を通して評価する。

5. 教科等との関係

本単元においては、夏休みの社会見学旅行での長崎平和公園、原爆資料館での体験が大変重要になってくる。原爆がもたらした惨劇への怒りや悲しみ、永遠の平和を願う強いおもいが、いろいろな教科学習の知識や技術を用いて表現されることになる。



第 4 章 LIFE の事例

7. 指導のポイント

1. 学習力 - ドの効果的な利用

本単元では、一人ひとりの役割分担が異なり、さらに各グループでの活動となるため、一人ひとりの活動の把握が難くなる。このような活動はともすれば、生徒が自由に活動できる反面、表現の高まりが見られないという可能性も考えられる。そこで、次のような視点から、右のような学習力 - ドを利用する。

取り組みのあゆみを把握する手段
毎時間の生徒の取り組みの内容を書かせることで、一人ひとりの生徒の活動の把握ができる。生徒にとっては、その時間の活動を振り返ったり、自分の活動の記録として表現の高まりと成長を感じることができるものとなる。

問題点に対するアドバイス、生徒とのコミュニケーションの手段

毎時間の生徒の活動の記録や表現づくりの悩みなどに対してアドバイスを書くことで生徒にとっては活動の見通しが明確になったり、表現の高まりに対する称賛によって次時の活動への意欲の高まりへとつながっていくことになる。

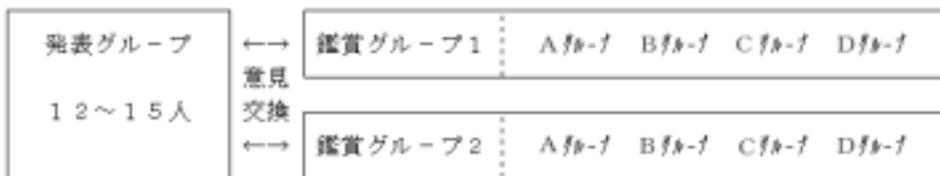
2. 中間発表の効果的なさせ方を工夫すること

中間発表は、作品全体の構成の中で一人ひとりの表現が適切であるかを確認するという大切なポイントになる。できるだけ多くの生徒が相互評価をし合い、活発に意見交換することが、よりよい作品づくり、人に訴える力のある作品づくりには欠かせないのである。具体的には、各グループごとに発表させる際、聴いているグループは3～4人単位の小グループをつくる。その中で記録係を決め、出た意見を記録用紙にまとめる。その後、意見交換をすると共に記録用紙は発表グループに渡す。発表グループはそれらの意見をもとに次時から表現を練り上げていくことになる。

4. 学習の記録

| 月日 | 自分の表現を振り返って (反省と課題) | 先生から |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 9/17 | 小島 → セリ → 田 (いっしょに活動) → 足音 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 | ずいぶんおもしろいね。すばらしいですね。次は楽しんで。 |
| 9/18 | 田 → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 | いいですね。どんな表現にするのかとも聞いてみたい! |
| 10/3 | 田 → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 | 足音は面白いですね。実際に作って? ビールの録に上乗せして、録音して打つ。などもいいですね。 |
| 10/14 | 田 → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 | 様々です。4人組で活動すればいいですね。Good! 活動の進め方についてチームワークをおよばう。 |
| 10/21 | 田 → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 (2人組) → 水 → 遊ぶ音 (いっしょに活動) → 田 | うまかったですよ。すばらしい出来です。目をこらして聞くと... 作業が面白くなってきているですね。 |

学習カードの例



第 4 章 LIFE の事例

3．評価に対する考え

基本的な考え方

評価については、「表現に必要な資料や音素材などを活用する能力が身についているか」「他者の表現との関わりを考えながら、自分の表現を工夫していく能力が身についているか」という大きく2つの内容を考えている。ただし、生徒一人ひとりの役割分担が違うということから、一人ひとりの活動を把握しておく必要がある。そこで、学習力 - ドの記述による評価、中間発表における評価、実際の作品における評価を3つの柱としていく。

具体的な評価の仕方

ア．学習力 - ド

学習力 - ド（左ペ - ジ参照）は、毎時間活動後に書かせるものであるが、その内容は、活動の反省、問題点、悩みなどを記述させる。教師はそこから、資料や音素材の活用の様子を知ることができる。また、各時間の生徒の自己評価から生徒の考えの変化、表現の工夫などを把握し、次時への的確なアドバイスを与えることができる。

イ．中間発表における評価

中間発表においては、それまでの学習力 - ドでの活動の記述をもとにしながら、生徒がどのように考え、表現を工夫したかを実際の表現として見る。記述だけではわかりにくい他者の表現との関わりも直接見ることができる。相互評価による意見交換によって聴く人にどれくらい伝わるか自己の表現を振り返る場となる。

ウ．実際の作品における評価

本単元の活動を通して作りあげた作品を最後に録音する。作品の中では、生徒が作品全体の構成を把握し、自分の表現のあり方についてどのように考え、工夫をしているかを見る。録音した作品を鑑賞した後は、単元を通しての感想を書かせるようにする。



中間発表で感じたことを記録する姿



全体合唱「遠い日の歌」

第4章 LIFEの事例

【生徒の作品の一部】

| ナレ-ション・演技・歌など | BGM・効果音など |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(第1部途中から)</p> <p>ナレ-タ- : 午前11時頃。真夏の太陽は浦上の美しい丘にこどもなげに輝いています。</p> <p>女の子 : お母さん、見て。掌のような形の大きな雲が浮いているよ。</p> <p>お母さん : 本当。大きいねえ。</p> <p>女の子 : あっ、何か音が聞こえるよ。</p> <p>お母さん : 何かしら。</p> <p>ナレ-タ- : 大きな雲の上からB29の爆音が聞こえ、銀色に光る小さな機影が現れたとき、黒い一つの細長いものが落ちてきました。</p> <p>閃光</p> <p>男の子 : うわっ、まぶしい！ 音は何もしない轟音</p> <p>ナレ-タ- : 今までなかった大きな白煙の塊がぐんぐん膨張する。浦上の丘を山を猛烈な勢いで寄せてくる波がある。その波は山の木々といわず、ありとあらゆるものを押し倒していく。</p> | <p>BGM・効果音など</p> <p>穏やかな感じの音楽(ハ-プ中心の音楽)</p> <p>飛行機の音(プラスチック容器を電動ハブラシで擦る音)</p> <p>閃光のイメ-ジ(トライアングルのパチでドラを擦る音)</p> <p>押し寄せてくる激しさ(パストラム、ティンパニ-の強弱の変化をつけた連打)</p> |
| <p>(第2部始めの部分)</p> <p>パチパチと焼ける音 火が燃え広がる音 人々のうめき声</p> <p>女の子 : だれか・・・助けて。</p> <p>男の子 : ...お-い・・・</p> <p>お母さん : この子に、水を、水を下さい。</p> <p>女の子 : 熱い、熱いよう。</p> <p>女の人 : う～誰かあ・・・</p> <p>男の人 : 川は・・・どこだ・・・水・・・</p> <p>ナレ-タ- : 人々は水を求めて、さまよい回りました。 肉親を探して、母親を求めて、子供を求めて 見る影もなくなった死者を避けて。</p> | <p>うめき声(実際に数人で苦しそうな声を出す) いろいろなものが火によって燃える音(いろいろな固さのビニル袋、発砲スチロ-ルを揉む)</p> <p>不気味な感じの音(パストラム、ドラ、マリンバでの単発的な打音)</p> |
| <p>(作詞・作曲の歌「平和を願う」)</p> <p>まぶしく光った閃光に 多くの命は奪われた 親子の泣き叫ぶ声が 炎の海にのみこまれ・・・ 焼け野原の真ん中で いつまでも君を待っている 約束のこの場所で 一人で涙を流す 幸せを苦しみに変えて 全てを流す黒い雨 雨に打たれたその背中 治らぬ傷は永遠に・・・ 熱いと泣き叫んでは 水ある場所を求めてる もうろうとした意識の中 家族を思う 焼け野原の真ん中で いつまでも君を待っている 約束のこの場所で 一人で涙を流す そして 平和を願う・・・</p> | <p>第2部「原爆のもたらしたもの」グループの生徒たちが、作曲者のピアノ伴奏にのって第2部の最後に歌う。</p> |
| <p>(第3部途中から)</p> <p>女の子 : お母さん。今日もいい天気だね。川に行って遊んでいい。</p> <p>お母さん : お兄ちゃんと一所に行ってらっしゃい。お兄ちゃん、ちゃんと面倒みてよ。</p> <p>男の子 : わかってるよ。じゃあ、行ってくるよ。</p> <p>女の子 : うん、行こう！</p> <p>お母さん : 気を付けて遊ぶのよ。 川で楽しく遊ぶ様子</p> <p>ナレ-タ- : 私たちは今、平和な毎日を送っています。 原爆が投下され、今生きていることの大切さを感じます。 憎み合いのない 平和な これからの未来を 私たちの手でつかみ取りたい</p> <p>ナレ-タ- : あの惨劇を忘れない。 平和で希望に満ちあふれた 私たちの未来を 貫いていきます。</p> <p>全員合唱「遠い日の歌」</p> | <p>楽しい感じ(「千と千尋の神隠し」の主題歌の旋律をピアノで演奏) お母さんが包丁で野菜を切る音(机に木の板を打ちつける) 川のせせらぎ(シンセサイザ-の音) 子供らの楽しい声</p> <p>平和を感じるような曲(「 」のギタ-での二重奏)</p> <p>生徒のピアノ伴奏、指揮による合唱</p> |

第4章 LIFEの事例

【授業を終えての生徒の感想より】

始めはどこから手をつけていいのかわかりませんでした。練習も細かくそれぞれの部分部分にわかれています。どんな作品ができるのかわかりませんでした。

でも最終的に出来上がったのを聞いてみると、思っていた以上に心に響く作品となっていました。ナレーターの声のこもった読み方や実際にその場の人物になりきっている劇、そして背景をつくり出している効果音・BGM、さらに台本だけに頼らず、自分たちで場面を新たに加えてあたりもして、本当にいろいろな工夫がありました。聴いていて社会見学旅行で行った長崎の原爆資料館を思い出しました。戦争がおこらない平和な世界になればいいなと思いました。

この授業の難しかったことは2つあります。1つは多い人数で1つの作品を作り上げるので、同じナレーションからイメージする音が個人によって違うということ。グループ内でもひとりひとりを考えた音を聞いて、ナレーションとあっているか、というのを確認するのにすごく時間がかかりました。もう1つは、自分たちのイメージした音だけを相手に思っていることがうまく伝わるかということ。自分では「ここに合っている」と思っているけど、他の人に聞いてもらうと「この場面のイメージに合っていない」と言われたりすることもしばしばありました。また、火が燃え広がる音や原爆が爆発する音などは、どうしたらリアルに聞こえるか、ということもすごく悩みました。全体では、演説の部分もとてもリアルに表現できていたと思います。場面の交代がうまく切り替えられていて、うまかったです。